

「みよし文化財だより」は文化財保護課（歴史民俗資料館）が作成する不定期刊行物です。

～あなたの町の石造物 庚申塔 Part.2～

現在三芳町内で確認されている庚申塔は全部で6基あります。上から順に古いものから紹介します。

■上富(南止) 正徳4年■



●銘文



●所在地…上富 707-4(けやき並木通り沿い)

●形態…舟型

●大きさ…140cm×50cm(高さ×幅)

●建立年代…正徳4年(1714年)11月

●彫刻…日輪月輪/鶏/三猿/青面金剛(弓・戟・宝輪・矢・合掌)

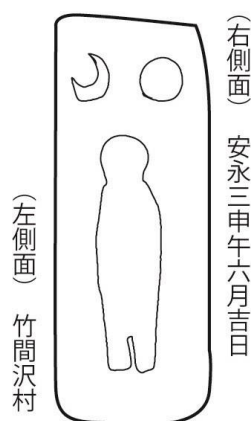
町内で確認されている最も古い庚申塔。

青面金剛の頭髮部には蛇がとぐろを巻いている。基台部には「武芻(州)入間郡 上富村 施主 (以下人名 11名)」と刻まれており、当時の上富村で庚申待を行った人々によって建立したことがわかる。

■竹間沢 安永3年■



●銘文



●所在地…竹間沢 858(竹間沢神社境内)

●形態…駒型? (頂部がやや欠損している)

●大きさ…58 cm×28 cm(高さ×幅)

●建立年代…安永3年(1774年)6月

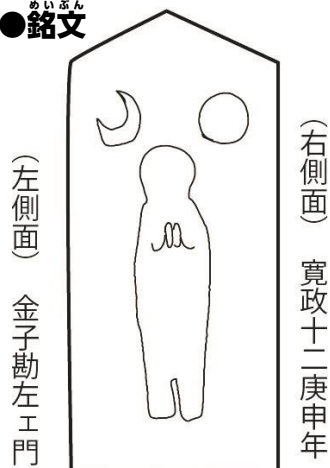
●彫刻…日輪月輪/鶏/三猿/青面金剛(弓・戟・宝輪・矢・剣・鬼・ショケラ)

竹間沢神社境内にある庚申塔。風化・破損がひどく、青面金剛の顔と剣が明確ではない。左側面に「竹間沢村」と刻まれており、当時の竹間沢村で庚申待を行った人々が施主でこの庚申塔を建立したことがわかる。

■上富(南止) 寛政12年■



●銘文



●所在地…上富 707-4(けやき並木通り沿い)

●形態…駒型

●大きさ…58 cm×23.5 cm(高さ×幅)

●建立年代…寛政12年(1789年)

●彫刻…日輪月輪/三猿/青面金剛(弓・戟・宝輪・矢・合掌)

町内で唯一、庚申年に建立されている庚申塔。風雨にさらされていたため風化・破損が激しく、かろうじて青面金剛であることがわかる。左側面に施主の個人名が刻まれている。

■北永井 享和元年■



●銘文



- 所在地…北永井 931 (北永井稲荷神社阿弥陀堂付近)
- 形態…駒型
- 大きさ…58 cm×25.5 cm (高さ×幅)
- 建立年代…享和元年(1801年)2月
- 彫刻…文字のみ

町内で現在確認されている庚申塔のなかで、唯一の文字塔。彫刻は月や日などの描写はなく、文字のみ刻まれている。

■藤久保 享和2年■



●銘文



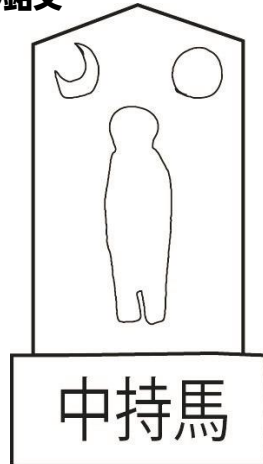
- 所在地…藤久保 159 (川越街道沿い)
- 形態…駒型
- 大きさ…91 cm×38 cm (高さ×幅)
- 建立年代…享和2年(1802年)10月
- 彫刻…日輪月輪/三猿/青面金剛(弓・戟・宝輪・矢・剣・鬼・ショケラ)

藤久保のみらい通りと川越街道が交差する付近にある庚申塔。左側面に「藤久保村講中」と刻まれており、当時の藤久保村で庚申待を行った人々が施主でこの庚申塔を建立したことがわかる。

■北永井 年代不明■



●銘文



- 所在地…北永井 931 (北永井稲荷神社阿弥陀堂付近)
- 形態…駒型
- 大きさ…87 cm×37 cm (高さ×幅) ※基台部は含まない
- 建立年代…年代不明
- 彫刻…三猿/青面金剛(弓・戟・宝輪・矢・剣・鬼・ショケラ)

北永井の北永井稲荷神社阿弥陀堂付近にある庚申塔。建立年代の記載はない。基台部に施主が「馬持中」と刻まれているが、馬持中とは馬を所持している人々の集まりのことであり、庚申塔に彫刻されている青面金剛との関係性は見られない。また使用されている石材も異なるため、基台部は違う石造物のものである。

■まとめ

三芳町において、庚申塔は正徳4年～享和2年の江戸時代中期から後期にかけて建立されていました。この傾向は周辺地域である富士見市・ふじみ野市も数に差はあれど同様です。現在庚申信仰は衰退し、当時の信仰の証として庚申塔が残っています。現地調査で庚申塔を巡っている際、花や水が供えられていたり、ふと足を止めて拝んでいる方を見て、建立された当時の信仰は薄れたものの、地域を見守ってくれる有り難い神仏として今も敬われていることがわかりました。春に向けて暖くなる季節、皆さんの住んでいる町の庚申塔を巡ってみてはいかがでしょうか。(文：木村)